

## 2011年9月ドミニカ共和国内政・外交・経済定期報告

2011年11月8日  
在ドミニカ共和国日本国大使館

当国2011年9月の内政・外交・経済に関する定期報告は以下の通り。

### 【概要】

- 9月15日、下院は2011年度の補正予算を可決し、30日には上院で2012年度予算案の審議が開始された。
- 9月中、メディーナPLD候補は、明年5月の大統領選で同盟締結を見込む小政党の幹部と会談した。
- 9月14日～10月2日、メヒアPRD候補は欧州の海外選挙区を遊説し、自らへの支持を訴えた。
- 9月18～25日、フェルナンデス大統領はニューヨークを訪問し、第66回国連総会に出席した。
- 9月6～9日、アルブルケルケ副大統領はワシントンDCを訪問し、10月に当国で開催される「第5回ラス・アメリカス競争力フォーラム」の準備会合に参加した。
- 8月30日～9月6日、IMFミッションがスタンドバイ協定第7次レビューの協議の為に来訪した。
- 9月27日、ガルシア観光相は本年中に当国に来訪する観光客数が430万人に達する見込みである旨発表した。

### 1. 内政

#### (1) 国会関連

##### ア. 2011年度補正予算案可決

9月15日、当国下院は教育部門に対する47億ペソ(約1.23億ドル)の補正予算案を可決した。尚、教育省に43億ペソ、高等教育省に4億ペソが割り当てられる。

##### イ. 2012年度予算案

9月30日、フェルナンデス大統領は上院に対し2012年度の予算審議を開始するよう求めた。同予算の総額は4300億ペソ(約113億1578万ドル)で、明年の経済成長率を5.5%、インフレ率を7.5%、1ドルを40.3ペソ、石油価格を1ガロン101ドルの前提で計算したもの。

#### (2) 主要政党の動き(大統領選関連)

##### ア. PLD(ドミニカ解放党)

(ア)ダニーロ・メディーナ候補(元大統領府相)は、明年5月の大統領選に向け、同盟の締結を見込み、各党の幹部と相次いで会談した。9月中に同候補が幹部との会合を行った主要小政党は、a) PRSD(社会民主革命党)、b) PRSC(キリスト教社会改革党)、c) PDI(民主制度党)、d) FNP(国家進歩主義勢力)。

(イ)9月11日、野党PRD出身のモンデシー・サンクリストバル市長(首都西部)及びデラクルース・サントドミンゴ北市長が明年の大統領選で、与党PLDのメディーナ候補を支援する旨表明した。

(ウ)16日、メディーナ候補は訪問先のニューヨーク市でPLD及びPRD支持の企業家達との会合に出席した。

#### イ. PRD(ドミニカ革命党)

(ア)本年3月に行われた大統領候補を決定する為の党内予備選(メヒア元大統領が勝利)から半年が経過したが、未だイポリト・メヒア候補派とミゲル・バルガス党首派の対立が解消していない。また、両者の直接会談も未定。

(イ)9月14日～10月2日、メヒア候補(元大統領)は欧州選挙区を遊説し、スペイン、フランス、イタリア、オランダ、スイス、英国に在住のドミニカ(共)人有権者に対し自らへの支持を訴えた。当国有権者の約5%にあたる20万8千人が在外投票者に該当し、彼らの投票行動が明年5月の大統領選の結果に大きな影響を与えている。

#### ウ. PRSC(キリスト教社会改革党)

(ア)9月初旬、カルロス・モラレス党首(現外相)は、同党が明年5月の大統領選において、与党PLDと同盟を結ぶべきとするグループと、第1回投票で独自候補を擁立するべきとするグループに分裂しており、近日中に党の結論を出す述べた。

(イ)16日、モラレス党首はロベルト・ロザリオJCE(中央選挙委員会)委員長と会談し、11月6～20日に同党大統領候補者を決定する全国代議員大会への同委員長の出席及び(投票に関する)技術支援を依頼した。

#### (3)世論調査(大統領選関連)

##### ア. ハミルトン社(9月1～6日実施)

(ア)支持候補: PRDメヒア(45%)、PLDメディーナ(44%)

(イ)現政権の仕事振り: 悪い(61%)、良い(38%)

##### イ. CIDラティーノ社(9月1～6日実施)

(ア)支持候補: PRDメヒア(50%)、PLDメディーナ(34%)

(イ)現政権の仕事振り: 悪い(66%)、良い(29%)、どちらでもない(5%)

(ウ)政党支持率: PRD(46%)、PLD(34%)、PRSC(3%)、その他(17%)

(エ)去年と比べて国の経済は: 悪い(66%)、良い(11%)、同じ(23%)

#### (4)麻薬裁判

ア. 9月26日、本年4月より裁判が行われていたプエルトリコ出身の麻薬王フィゲロア・アゴストの共謀者(資金洗浄、麻薬販売網構築、依頼殺人等の疑いで逮捕)8名への判決が下された。8名中6名が5～15年の有罪、1名は無罪、残り1名は5年の執行猶予判決であった。

イ. フィゲロアは“懲役209年”の判決後、プエルトリコの刑務所から脱獄し、昨年7月に逮捕されるまで約11年当国で逃亡生活を送っていた。同人の逮捕後、ドミニカ(共)人の愛人がプエルトリコで自首し、当国に強制送還された。本件は、近年の当国における治安の悪化と麻薬取引隆盛の典型例として、当国で連日大きく報道された。

#### (5)エンリキージョ湖の上昇問題

9月27～28日、NASA(米航空宇宙局)の気象学者及び水質学者から成るチームがハイチ国境沿いに位置するエンリキージョ湖の調査を国家水資源研究院(INDRHI)の協力で行った。同調査によると、2009年から本年7月の間に「エ」湖は、約90キロ平方メートル拡大したとの事である。

#### (6)オゾン層破壊物質の輸入禁止

9月29日、フェルナンデス大統領は法令565-11を発令し、モントリオール議定書(1989年発効)に違反する物質の輸入を禁止した。右法令は環境保護(オゾン層破壊防止)及び国民の健康を守る為に発令された。今後はフロンガスを含んだスプレーや四塩化炭素を含んだ断熱材等

の輸入が全面的に禁止される。

#### (7)ドミニカ(共)人の強制送還

9月29日、米国政府は109人のドミニカ(共)人を強制送還した。尚、本年1-9月の強制送還者数は前年同期比23%増の計1847人となった。

## 2. 外交

### (1)フェルナンデス大統領の国連総会出席

ア. 9月18~25日、フェルナンデス大統領は、ニューヨークを訪問し、第66回国連総会に出席した。19日には、潘基文国連事務総長と会談し、潘事務総長から「フェ」大統領が提案する食料・エネルギー価格高騰の抑制に関する発議への支持が表明された。

イ. 20日、マドゥーロ・ヴェネズエラ外相と会談し、ペトロカリベ協定の下で供給されている原油量が現在の日量3万から5万バレルに増加される旨発表した。

ウ. 21日、「フェ」大統領はインドネシアと外交関係樹立のための協定に署名した。

エ. 22日、「フェ」大統領は国連総会において演説を行い、食料・エネルギー価格高騰の抑制に関する発議について各国の支持を呼びかけた。

### (2)アルブルケルケ副大統領のワシントン訪問

ア. 9月6~9日、アルブルケルケ副大統領はワシントンDCを訪問し、10月に当国で開催される「第5回ラス・アメリカス競争カフォーラム」の準備会合への出席と広報活動を行った。

イ. 8日、「ア」副大統領は、ソリス米労働相と会談し、DR-CAFTAの現状分析、二国間の労働関係や協カプログラム等について意見交換を行った。

### (3)アブロンシー・カナダ外務省中南米・領事局長の当国訪問

9月13日、アブロンシー・カナダ外務省中南米・領事局長は当国を訪問し、フェルナンデス大統領との会談を行った。同会談で、アブロンシー局長はカナダが当国における最大の外国投資国の一つであること、年間80万人のカナダ人観光客が当国を訪問している等の事例を挙げつつ、両国の経済関係について意見交換を行った。

### (4)グテレス・UNHCR高等弁務官の当国訪問

9月6日、グテレス・UNHCR高等弁務官は当国を訪問し、「フェ」大統領と会談した。同会談において両者は、本年末に当国で開催予定の難民保護条約締結60周年及び亡命者減少に関する協定50周年記念行事における大臣級会合の開催について協議した。

### (5)信任状捧呈式

9月2日、フェルナンデス大統領は、5カ国(ニカラグア、メキシコ、スペイン、セルビア、パハマ)の新任大使の信任状捧呈式を行った。

### (6)米州機構による当国の召喚

9月30日、米州機構人権委員会は10月24日にワシントンで行われる裁判に当国を召喚した旨発表した。同裁判は、複数のNGO(ドミニカ・ハイチ女性運動、正義・人権のためのケネディー・センター、グローバル・ライツ、正義と国際法センター)の要請を踏まえ行われるもので、当国における複数の「国籍剥奪(desnacionalizacion)」の訴えについて取り上げる予定である。

### (7)当国とハイチの国家警察の協力

9月16日、ポランコ国家警察長官は、アンドレソル・ハイチ国家警察長官と会談し、両国におけ

る犯罪撲滅運動の強化につき合意した。また、両長官は、麻薬や銃器の取引、車両窃盗、人身売買等について両国共同で戦略を立てる旨合意した。更にアンドレス長官はポランコ長官に対し、地震後に刑務所から逃亡した囚人500名の関連資料を手交した。

### 3. 経済

#### (1) IMFミッションの来訪

ア. 8月30日～9月12日、アレハンドロ・サントス団長率いるIMFミッションがスタンバイ協定(2009年11月締結)第7次レビューの協議の為、来訪した。同ミッションは国際経済危機にも関わらず、当国のマクロ経済状況は順調で、本年の成長率は4～5%、インフレ率は7～8%を夫々見込んでいるとの見解を示した。

イ. ただ、電力セクターの赤字及び財政赤字額がIMFから指示された目標値に達しておらず、当国によるインテンションレターの提出を前に、10月14日から中銀高官が協議の為ワシントンD.Cへ赴く予定。

#### (2) バリックゴールド社の操業開始見込み

ア. 9月1日、ボニージャ・バリックゴールド社長は、同社が権益を持つ当国中部のプエブロ・ビエホ(Pueblo Viejo)鉱山への累計投資額が29億5千万ドルに達しただけでなく、明年中旬の金、銀、銅の採掘に向けた準備も約70%完了した旨述べた。

イ. また、同社長は(他案件も含め)全ての鉱物生産が順調に進んだ場合、2013年より当国鉱山部門の対GDP比は7～8%に達し、ドミニカ(共)は“鉱山大国”になるとの見解を示した。

#### (3) イ・フィアット社による天然ガス車導入計画

ア. 9月21日、エルビルハ・ラテンアメリカFIAT社長は、当国市場に天然ガス車を投入する可能性を探るべく調査を開始する旨発表した。同調査は、天然ガス車導入の“可否”ではなく、どのモデルの天然ガス車が当国の需要に合致するかを研究する。

イ. エルビルハ社長によると、ラテンアメリカ地域におけるFIAT及びアルファロメオ両ブランドの販売量は約100万台で、世界総販売台数の約15%を占めるとのこと。

#### (4) ペソ紙幣の変更

9月26日、中銀は二千、千、五百、百、五十ペソの各紙幣を新憲法第229条の規定に則り、本年印刷分からデザインの一部及び通貨呼称名を“ペソ・デ・オロ”から“ペソ・ドミニカーノ”に変更する旨発表した。

#### (5) 観光客数

ア. 9月27日、ガルシア観光相は“世界観光日”記念式典で演説し、2010年に当国を訪問した観光客数は、2009年比3.3%増の412万5千人で、本年は430万人を見込んでいる旨述べた。

イ. 同式典に出席したリブレASONAHORES(ホテル・レストラン協会)会長は、近隣のキューバ、メキシコ、ジャマイカと比較して、当国の観光業は過去3ヶ月停滞気味で、その理由として、当国の燃料税及び犯罪率の高さが挙げられるとの見方を示した。

ウ. また、中銀は本年1～8月に当国を訪問した外国人観光客数が前年同期比3.77%増の264万1386人である旨発表した。尚、南米からの増加数が前年比7万6049人の純増であった一方、欧州からの観光客数は1万6551人の純減であった。

以上